

## － はじめに －

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、その感染防止を常に考慮して各種事業に取り組まざるをえず、計画していた事業の見直し、事務局として開催の準備を進めてきた中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会の延期など一部事業の廃止や延期を余儀なくされた。

新型コロナウイルス感染防止対策については、日々の検温や手洗い消毒、マスクの着用等の実施はもとより、3密を避ける行動に意識して取り組むとともに、感染状況に応じて感染拡大地域への往来の制約などを行った。行事についても、密にならない工夫を行うなど可能な限りの対応を実施した。また、国の補助金等を活用して、感染を防止するためのマスクや消毒液、防護服などの衛生用品やアクリル板、空気清浄機などの備品を購入するなど環境改善を図った。

令和2年4月に、国の社会的養育ビジョンに基づき高知県における児童養護に関する10年計画である「高知県社会的養育推進計画」が策定された。これを受け、子供の家、愛童園において、各施設の今後10年間の小規模化、多機能化等の計画である「社会的養育推進計画」を9月に策定し、愛童園においては、小規模化を進めるために、令和3年4月の完成を目指した分園型小規模グループケアの建築工事に12月から着手した。

近年、児童養護、母子生活支援施設、保育職場は厳しい雇用環境が続いており、人材の確保と育成は大きな課題となっている。そこで、法人情報の発信をより円滑に行えるようホームページをリニューアルするとともに、コロナ禍で研修の廃止が多くなる中、Web研修なども積極的に活用し、職員の意識啓発、専門性の向上やステップアップのための支援に継続して取り組んだ。また、新たな人材として、職員採用試験を秋、冬に実施し、子供の家1名、愛童園2名、三里保育園1名を正職員として採用した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、令和2年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。